

年間第22主日

福音朗読 ルカ 14・1、7-14

2022.8.28

カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

宴会に招かれて上席を選ぶっていうことは、わたしたちの文化からすればちょっと程遠い、「そんなことしませんよ」と、むしろ「どうぞ、どうぞ」とか言って上席を譲り合ってなかなか席が決まらないことがありますけども、しかし、例えば考えてみてください。上席はわたしたちは選ばないけど、でもほんとに欲しい席とか、奪い合っちゃう。

2019年にフランシスコ教皇様が日本にいらっしゃったとき、東京ドームのミサですね、あの時、人間の心の醜い面というのが露わになったような気がします。教皇様が日本にいらっしゃるといえるのは、本当に聖なる瞬間です。そしてその教皇様のミサ。だけど多くの人の関心は、あれは抽選だったでしょ、自分が当たるかどうかだったし、あるいは各小教区ごとに教会の番号が割り振られていて、思い出してみてください、それがないとインターネットから抽選のエントリーができない、その番号を、ある教会なんかだったら、例えばその教会で定期的にやってる外国語のミサに集まっている人たちっていうのはその小教区に所属していない。だから所属してない人には番号を見せない、みたいなね。それは、自分が当たる確率が減っちゃうから。わたしのいた教会じゃないですよ。そういうようなことで、みんなと一緒に喜ぶ、参加できる人も、そして参加できない人もできる人と一緒に喜ぶ、そういう雰囲気にはなかなかならなかったように思います。そして「普段来てないのに」みたいな気持ちにね。わたしなんかも、教会にいて、電話がかかって来て「番号を教えてください」みたいなことだと、「日曜日のミサには来る暇はないけど、東京ドームには行けるんですね」って、口には出しませんが、そんなこと言ったってしょうがないから、心の中ではちょっと意地悪な気持ちになるようなことが出てくる。ほんとに、そういうのっていうのは、わたしたちもみ言葉に触れて、そして教皇様のミサに参加しようとしてるけども、その過程においては自分のことばかり考えるような雰囲気になってしまった。

こんなことが言えるのは、わたし自身がそこに参加することにそんなに興味がなかったから、ひとごとみたいに言えてるのかもしれませんが。最初は参加するつもりじゃなかったんですよ。コロナはまだ流行ってませんでしたけど、閉鎖空間でインフルエンザになりに行くようなもんだなと思って。でもこちら出身の小池神父さんが一

所懸命典礼の係で奔走していて、そして若手司祭も、まだ若手って言われてるんですけど、手伝うように、って言われたから参加した。ミサそのものはとても良かったけど、そこに至るまでが、いろんな、みんながドームの席を取り合うみたいな雰囲気、そして当たった人が自分が当たったって言えない、「なんであなたが」みたいなことになっちゃうから、そういうのは本当に信仰を持った者であっても、教皇様のミサに参加しようとする者であっても、やっぱり自分の関心が先立っちゃう時ってあるなと思います。

やっぱり、全ての人が自分中心の考え方をして、そして人付き合いなんかでも、それが自分にとって損になるのか得になるのか、相手が自分にとって使える者なのか使えない者なのかっていう基準で付き合うような世界だったら、それはほんとに地獄ですよ。でも、世界をお創りになった神様は世界が地獄になることを望んでいないので、そうではない、自分のことだけそして損得で他者を見るというのではない基準で生きる者を呼び集めようとされている、その呼び掛けを受けた、ってわたしたちは信じてるわけだし、また、逆に言えば、そういう自分の利益そして損得ということだけで生きてるならば、自分の周りにもそういう人ばかりになっちゃう、いつしかね。そして自分の周りにある意味で地獄を作り出しちゃうから、本当にこの世の中のすばらしさを味わうためには、そうじゃない、本当に他者を他者として尊重し、そしてその人そのものを尊重し、そして自分のことも大切にすけど、みんなですべて喜べたらいいよね、その思いで生きるということにイエス様をわたしたちを呼んでくださっているんじゃないかなと思います。

でも、そうじゃないふうに傾いていく誘惑は本当に強い、ということをいろんなところで経験いたしますね。だから、いつもイエス様がどのように歩まれたか、そしてそのイエス様と共にわたしたちは呼ばれて一緒に生きるんだという思いを新たにしながら、今日もイエス様と共に、ほんとの意味でこの世のすばらしさを味わうんだという思いで、他者に対して、そして神様に対して心を開きたいと思います。